学校番号	２０２

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	クラフトアート	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

ものを作る楽しさを学びながら実用と美を合わせて考えます。創造的な表現と機能について考え、鑑賞の能力を伸ばしましょう。

2　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】

対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し、個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせ美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりできるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・意図に応じて制作方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、工芸の働きなどについて考え、構想を練ったり、価値意識をもって工芸や工芸の伝統と文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	粘土細工　本物そっくりの食べ物をつくる	活動内容・評価について説明 アイデアスケッチを描きだすための基礎を学ぶ。 粘土の特性を知り立体的に制作する。 展示空間に飾るポスターをつくる。 ロイロで鑑賞会 レポート提出	a：粘土の特性を活かし、表現方法を工夫して、主題を追及して表現している。 b：テーマを基に感性や想像力を働かせて、自己の内面を見つめて感じ取ったことや考えたことから形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 c：他の生徒の作品などのよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、作品などについて理解を深めている。	アイデアスケッチ 試作・提出作品 振り返りシート	アイデアスケッチ 制作途中の作品	制作の様子 完成作品
2学期	革工芸　コースター・コインケースづくり	革の特性・使用道具の説明をし、独創的かつ愛用できるデザインを考え、制作をする。 コースター制作 コインケース制作 ロイロで観賞会 レポート提出	a：革の特徴を理解し、表現方法を工夫して、主題を追及して表現している。 b:主題にあった表現方法を工夫し、創造的に表現している。 c:主体的に主題を生成して抽象化や再構成を行いながら構想を練り、活動的に取り組もうとしている。	アイデアスケッチ 試作・提出作品 振り返りシート	アイデアスケッチ 制作途中の作品 鑑賞レポート	制作の様子 完成作品

3学期	木彫 立体造形	彫刻刀の使用道具の説明をし、独創的かつ愛用できるデザインを考え、制作をする。 ロイロで観賞会 UVレジンや木材を使用し、 自由に立体作品を制作 ロイロで観賞会レポート提出	a: 粘土の特性を活かし、表現方法を工夫して、主題を追及して表現している。 b:主題にあった表現方法を工夫し、創造的に表現している。 c:主体的に主題を生成して抽象化や再構成を行いながら構想を練り、活動的に取り組もうとしている。	アイデアスケッチ 試作・提出作品 振り返りシート	アイデアスケッチ 制作途中の作品 鑑賞レポート	制作の様子 完成作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度